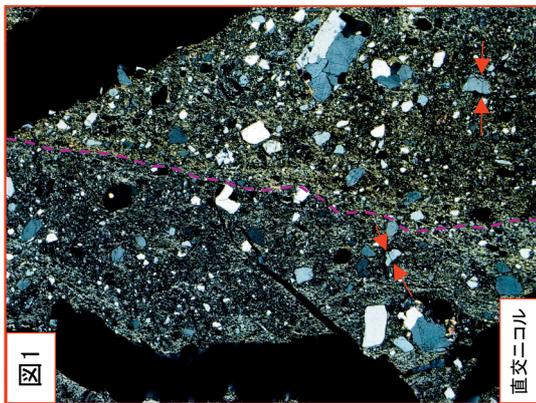
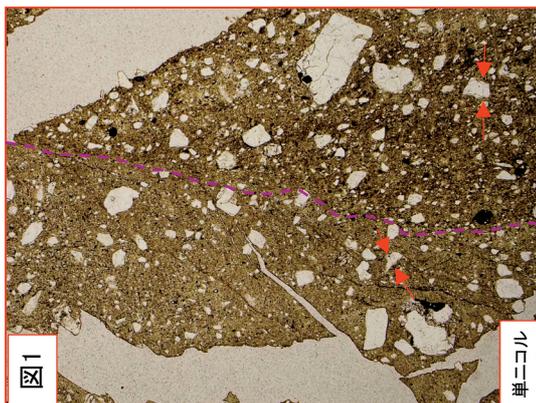
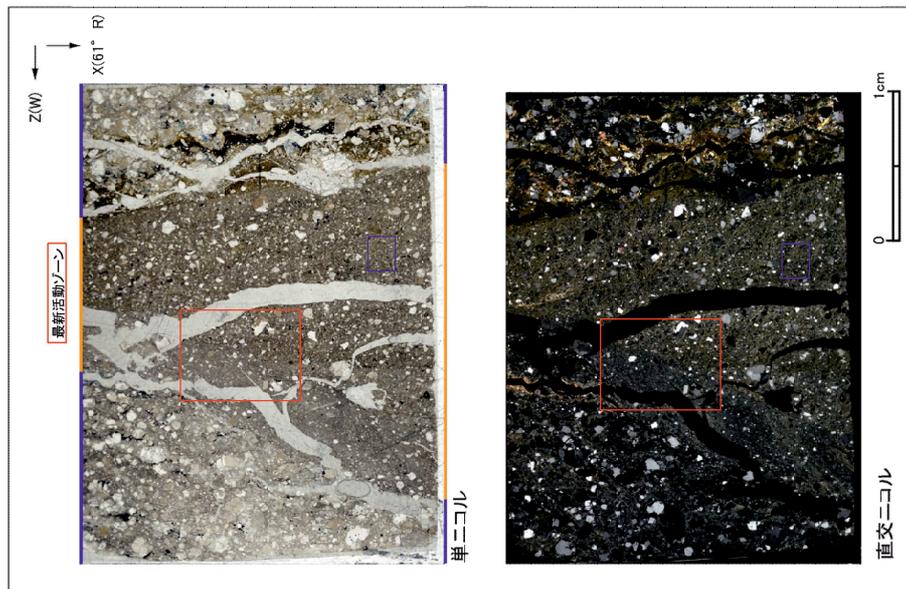
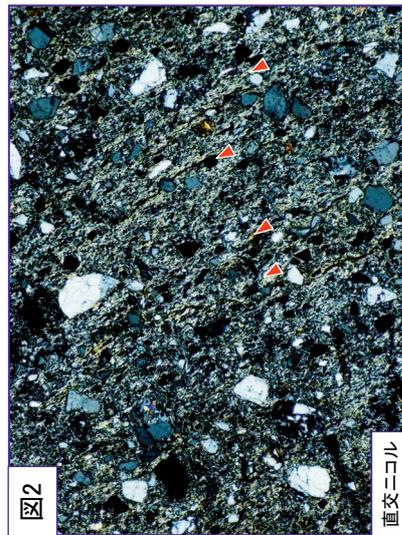
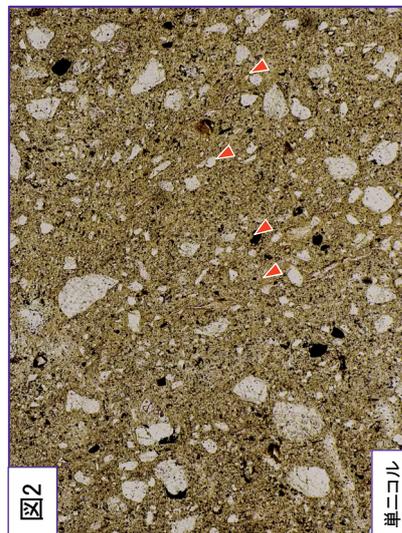


- 最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
 - 岩片は少ない。(図1)
 - 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図1)



破線は帯状で直線的な範囲を示す
赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す



赤三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す

(肉眼観察結果 深度9.58m)

- 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、粘土の連続性及び直線性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面βに沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面βは最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - セン断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサーサイトの特徴が認められた。
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサーサイトの特徴は、カタクレーサーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	0.8	有

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度9.92～10.04mの「粘土混じり礫状破砕部(Hj)」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度10.04～10.50mの「粘土・礫混じり砂状破砕部(Hb)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

破砕部性状の記事

- 9.92～14.69m: 破砕部 (K断面)
- 9.92～10.04m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj)
上盤76°、下盤69°。上盤、下盤とも比較的明瞭。上端は直線状をなし、下端側は湾曲する。明赤灰色を呈する。幅4～5cm程度。
- 10.04～10.50m: 粘土・礫混じり砂状破砕部 (Hb)
上端86°、下端86°。灰赤色の細脈がみられ、原岩の組織は不明瞭である。一部に花崗斑岩岩片(くさり礫)がみられる。明赤灰色を呈する。幅10cm程度。
- 10.50～10.50m: (細)砂混じり粘土状破砕部 (Hc-2)
傾斜86°。ほぼ直線状に連続する。にぶい黄色を呈する。幅6～7mm程度。
- 10.50～10.66m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)
上端86°、下端72°(不明瞭)。灰赤色の細粒分からなる細脈を伴う。明赤灰色を呈する。幅3cm程度。
- 10.66～14.69m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj)
上端72°(不明瞭)、下端69°(ほぼ直線をなす)。不規則に灰白色の粘土脈を伴い、原岩の組織が一部不明瞭となる。数本のせん断面を伴う。灰黄褐色、浅黄橙～灰白色を呈する。幅1.30～1.40m程度(推定)。
- 11.15～12.40m: コア流出
- 13.93～14.00m: せん断面(粘土・礫混じり砂状破砕部(Hb)相当)
- 上端55°、下端54°。せん断面と調和的に灰白色粘土脈が連続する。幅40mm程度。
- 14.12m: せん断面
傾斜41°で、シャープであるが湾曲する。上端側に灰白色粘土に富む部分のみみられる。
- 14.67m: せん断面
傾斜69°。せん断面に幅2～3mmの灰赤色粘土がみられる。上・下端には灰白色粘土が不規則にみられる。

コア写真



凡例
■ 断層ガウジ
■ 破砕部範囲※
 ※: 写真上は白色で記載

・深度10.50mの「(細)砂混じり粘土状破碎部(Hc-2)」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化された岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

・深度10.50～10.66mの「礫質粘土状破碎部(Hb)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化された岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

破碎部性状の記事

●9.92～14.69m: 破碎部 (K断層)
 9.92～10.04m: 粘土混じり礫状破碎部(Hi)
 上盤76°、下盤69°。上盤、下盤とも比較的明瞭。上端は直線状をなし、下端側は湾曲する。明赤灰色を呈する。幅4～5cm程度。
 10.04～10.50m: 粘土・礫混じり砂状破碎部(Hb)
 上端69°、下端86°。灰赤色の細脈がみられ、原岩の組織は不明瞭である。一部に花崗斑岩岩片(くさり礫)がみられる。明赤灰色を呈する。幅10cm程度。
 10.50～10.50m: (細)砂混じり粘土状破碎部(Hc-2)
 傾斜86°。ほぼ直線状に連続する。にぶい黄色を呈する。幅6～7mm程度。
 10.50～10.66m: 礫質粘土状破碎部(Hb)
 上端86°、下端72°(不明瞭)。灰赤色の細粒分からなる細脈を伴う。明赤灰色を呈する。幅3cm程度。
 10.66～14.69m: 粘土混じり礫状破碎部(Hi)
 上端72°(不明瞭)、下端69°(ほぼ直線をなす)。不規則に灰白色の粘土脈を伴い、原岩の組織が一部不明瞭となる。数条のせん断面を伴う。灰黄褐色、浅黄褐色～灰白色を呈する。幅1.30～1.40m程度(推定)。
 11.15～12.40m: コア流出
 13.93～14.00m: せん断面(粘土・礫混じり砂状破碎部(Hb)相当)
 上端55°、下端54°。せん断面と調和的に灰白色粘土脈が連続する。幅40mm程度。
 14.12m: せん断面
 傾斜41°で、シャープであるが湾曲する。上端側に灰白色粘土に富む部分のみられる。
 14.67m: せん断面
 傾斜69°。せん断面に幅2～3mmの灰赤色粘土がみられる。上下端には灰白色粘土が不規則にみられる。

コア写真



凡例
 断層ガウジ
 破碎部範囲※
 ※: 写真上は白色で記載

深度10.50mの粘土



青枠部拡大

・深度10.66～14.69mの「粘土混じり礫状破砕部(Hj)」と記載の箇所については、やや硬質～やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・なお、深度11.15～12.40mのコア欠如区間については、当該区間付近のBHTV孔壁展開画像には、連続的かつ直線的な細粒部は認められない。

破砕部性状の記事

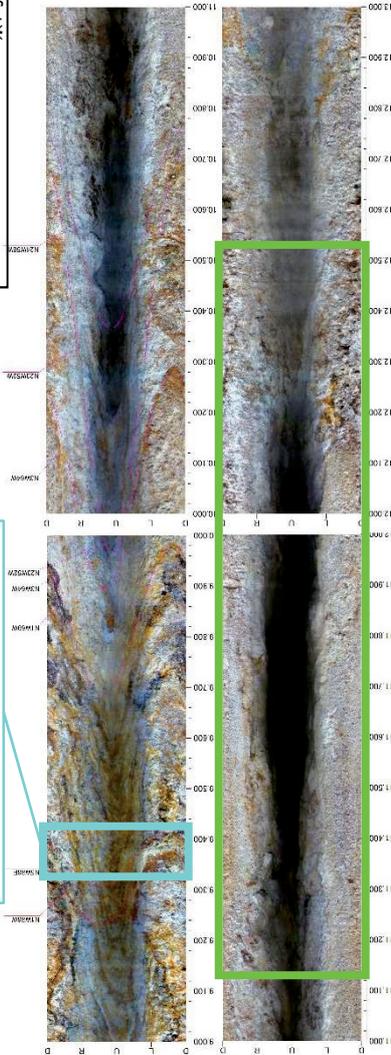
● 9.92～14.69m: 破砕部 (K断面)
 9.92～10.04m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hi)
 上盤76°、下盤69°。上盤、下盤とも比較的明瞭。上端は直線状をなし、下端側は湾曲する。明赤灰色を呈する。幅4～5cm程度。
 10.04～10.50m: 粘土・礫混じり砂状破砕部 (Hb)
 上端86°、下端86°。灰赤色の細脈がみられ、原岩の組織は不明瞭である。一部に花崗斑岩岩片(くさり礫)がみられる。明赤灰色を呈する。幅10cm程度。
 10.50～10.50m: (細)砂混じり粘土状破砕部 (Hc-2)
 傾斜86°。ほぼ直線状に連続する。にぶい黄色を呈する。幅6～7mm程度。
 10.50～10.66m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)
 上端86°、下端72°(不明瞭)。灰赤色の細粒分からなる細脈を伴う。明赤灰色を呈する。幅3cm程度。
 10.66～14.69m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj)
 上端72°(不規則)、下端69°(ほぼ直線をなす)。不規則に灰白色の粘土脈を伴い、原岩の組織が一部不明瞭となる。数条のせん断面を伴う。灰黄褐色、浅黄褐色～灰白色を呈する。幅1.30～1.40m程度(推定)。
 11.15～12.40m: コア流出
 13.99～14.00m: せん断面(粘土・礫混じり砂状破砕部(Hb)相当)
 上端55°、下端54°。せん断面と調和的に灰白色粘土脈が連続する。幅40mm程度。
 14.12m: せん断面
 傾斜41°で、シャープであるが湾曲する。上端側に灰白色粘土に富む部分が見られる。
 14.67m: せん断面
 傾斜69°。せん断面に幅2～3mmの灰赤色粘土がみられる。上下端には灰白色粘土が不規則にみられる。

コア写真



・深度9.35～9.39mの浅黄橙色部
 コアとBHTV展開画像の深度は約
 3cmずれている

凡例
 断層ガウジ
 破砕部範囲※
 ※: 写真上は白色で記載

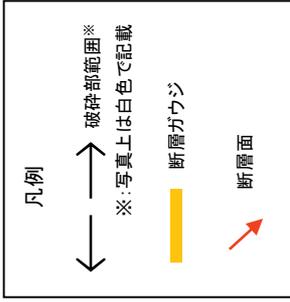


BHTV展開画像

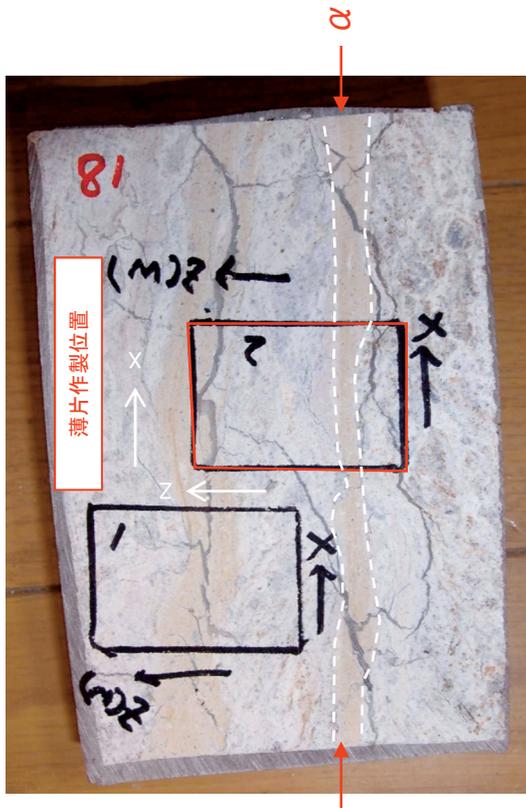
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。



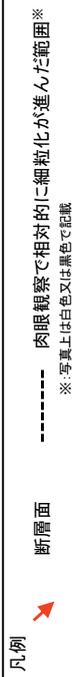
※断層面 α は最新活動面



薄片作製位置写真



X:条線方向(下向きを正とする)
 Z:断層面の法線方向(上向きを正とする)



薄片全景写真(単ニコル)

